

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：34426

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2020

課題番号：15K03068

研究課題名（和文）日本人の異文化間結婚による国際移住と老いに関する文化人類学的研究

研究課題名（英文）A Cultural Anthropological Study on Aging and International Migration of Intercultural Marriage

研究代表者

金本 伊津子（Kanamoto, Itsuko）

桃山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：60280020

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：海外に在住する日本人高齢者のケアの問題が深刻化している。これは、明治以降の南北アメリカを中心としたクラスター（集団）・マイグレーションによる日本人移民の高齢化によるものだけではない。第2次世界大戦直後にピークを迎え、近年着実に増加傾向にある異文化間結婚によるインディビジュアル（個人）・マイグレーションによる結果でもある。

このインディビジュアル・マイグレーションにより、日本人はコミュニティ帯に散住することとなる。この社会的距離感、日本的ケアを求める高齢者を支える相互扶助のネットワークを脆弱にした。また、その日常生活を描き出す老いのナラティブは、高齢期特有の文化的葛藤を明らかにしている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、エスニック・マイノリティ、高齢者、女性という三重のリスク（triple jeopardy）を抱えている異文化間結婚をした日本人高齢者の経験に焦点をあて、極めて個人的な老いの問題を、異文化結婚を含めたグローバル・マイグレーションという世界の動きに関連付けることにある。国・文化・言語・家族・社会福祉医療制度などの境界を越えたライフスタイルを持つ者の老いの問題は、日本におけるエスニック・マイノリティの高齢者の問題、日本人高齢者の海外移住の問題、長年にわたる異文化適応の問題などに新しい視座を提供できる。

研究成果の概要（英文）：Aging has become one of the world's most pressing concerns, especially in highly developed countries. The pressure of globalization and migration are making aging an increasingly intercultural process. The elderly Japanese overseas have learned that the food, language and cultural preference in everyday life can provide them with the sense of meaningful living, security, and cultural identity. They have a strong desire for culturally sensitive care with "Japanese" elements for their later lives. Except for the communities with a large Japanese population concentrated in an area, which has been caused by cluster migration since the Meiji era, the needs and wishes of elderly Japanese individuals cannot be realized. This cultural-anthropological study focuses on the intercultural experiences and conflicts of elderly Japanese who have experienced the individual migration of intercultural marriage.

研究分野：文化人類学

キーワード：エイジング 老い グローバルマイグレーション 国際移動 国際結婚 在外日本人高齢者 エスニシティ 文化的葛藤

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本人のグローバル・マイグレーション(国際移動)により世界の各地に形成されてきた日本人コミュニティは、この十数年において、高齢化が進み、海外に在住する日本人高齢者のケアの問題が深刻化してきている。

(2) これは、明治以降の日本の政策による南北アメリカを中心としたクラスター・マイグレーション(集団によるマイグレーション)による日本人移民の高齢化によるものだけではない。**1980**年代より急激な減少を見せる日本人同士の婚姻数に対して、第2次世界大戦直後にピークを迎え、近年着実に増加傾向にある異文化間結婚(インターカルチュラル・マリッジ)による、インディビジュアル・マイグレーション(個人によるマイグレーション)による結果でもある。

(3) 日本における異文化間結婚は、第2次世界大戦直後から、敵国であった外国人と結婚をした「戦争花嫁」と言われる日本人が急増したことから、「日本から逸脱した(問題を内包する)」結婚であるとの認識が強かった。一方、移住先のホスト社会においては、日本人というエスニック・マイノリティとしてのリスクを抱え、女性の場合は、マイノリティの中のマイノリティである女性という二重のリスク(double jeopardy)を抱え、高齢期に至っては、高齢者という三重のリスク(triple jeopardy)を抱える存在となっている。配偶者が日本人でないことや、子供が現地化していることから、日本人コミュニティからも一線が画される存在であることや、ましてや、海を越えた老親の介護(トランスナショナル・ケア)の担い手であるという事実は、いずれの社会からも見落とされている。

2. 研究の目的

(1) この研究は、異文化間結婚(法的に認知されている事実婚も含む)によって老後を海外で過ごす日本人の老いに伴う喪失とその文化的葛藤の経験に焦点をあて、ナショナリティからエスニシティの「日本人」へと推移する高齢者の文化的アイデンティティの変遷を明らかにするものである。

(2) また、異文化においても日本人高齢者にとっての尊厳あるいはウェルビーイングを支えあうために日本人コミュニティが共有するエスニシティにも文化人類学的考察を与える。

3. 研究の方法

(1) 本研究においては、海外在住の日本人(永住者)が多い国(イギリス、オランダ、ドイツ、オーストラリア、アメリカ)を調査対象として選定し、中でも日本人の異文化間結婚経験者が中心となって「老後を考える会」のような相互扶助的活動を展開しているコミュニティを選定して、フィールドワーク調査を実施した。

(2) 主な調査地と日本人・日系人高齢者福祉を目的とした団体・施設は以下の表のとおりである。

表1: 主な調査地と日本人・日系人高齢者福祉を目的とした団体・施設

調査地	日本人・日系人高齢者福祉を目的とした団体・施設	
アメリカ型移民国家		
アメリカ合衆国	ニューヨーク	ニューヨーク日系人会 邦人・日系人高齢者問題協議会
ヨーロッパ型移民国家		
イギリス	ロンドン	英国日本人会福祉部
オランダ	アムステルダム	シルバーネット(2020年に日蘭ネットに改名)
ドイツ	デュッセルドルフ	竹の会
オーストラリア型移民国家		
オーストラリア	パース	虹の会

(3) 調査方法および調査項目は以下の4つである。

日本人のグローバル・マイグレーション(国際移動)の歴史と日本人異文化間結婚の推移(文献調査)

在外日本人高齢者を取り巻く社会的状況(文献調査)

在外日本人高齢者コミュニティの老いに関する意識調査(定量的調査)

老いのナラティブ(定性的調査)

#### 4. 研究成果

(1) 今回の研究対象となった日本人・日系人高齢者福祉を目的とした団体やグループは、国際結婚を経験している(した)日本人女性が多く所属していることから、海外における高齢化の問題は女性の問題でもあることが明らかとなった。

(2) いずれの海外の日本人・日系人のコミュニティにおいても、日本のケアを備えた施設の現地設立を熱望しており、日本文化が日本人・日系人の高齢者のウェルビーイングに深くかかわっていることが明らかとなった。高齢者の日常生活を支える言語(日本語)・食(日本食)・楽しみ(カラオケで日本の歌を歌うなどの余暇活動)に至るまで日本的な生活環境を望む根強い声が観察された。

(3) ニューヨークには「ニューヨーク日本人会 邦人・日系人高齢者問題協議会」が、ロンドンには「英国日本人会福祉部」が、アムステルダムには「シルバーネット(2020年日蘭ネットに改名)が、デュッセルドルフには「竹の会」が、パースには「虹の会」が、日本のケアを提供できる高齢者福祉施設の建設を過去において検討していたが、いずれのコミュニティも実現には至っていない。これは、ビジネス、留学、国際結婚などの理由から個別に移住した日本人が地域一帯に散住するコミュニティにおいては、相互扶助のネットワークが相対的に脆弱であることが明らかとなった。

(4) それぞれの国における日本人高齢者が語る老いのナラティブは、コミュニティの脆弱性に加え、高齢期における異文化葛藤を表している。

調査対象となった国々においては、高齢者の日常生活を支える訪問介護士(ケアラー)の仕事は、主に移民の女性に支えられていることから、日本人高齢者とケアラーの異文化間コミュニケーションの問題が浮上している。ロンドンにおいては、アフリカ系の移民女性がこの仕事に従事するケースが多く、アフリカ系訛りの英語と日本食の食材を使った料理の仕方を教えることに苦戦する日本人高齢者は多い。その結果として、ケアラーは、台所のシンク下のキャビネットに高価な日本食の食材放置することとなり、最後にはゴミとして捨ててしまうというような、食文化に関する葛藤は尽きることはない。

日本のような介護保険が不在である国においては、高額な在宅介護費が大きな憂いとなって日本人高齢者にのしかかっている。ニューヨーク在住の日本人妻が、ユダヤ人の夫をユダヤ人の高齢者施設に入居させようとしたが、妻が日本人であることから入居を断られ、在宅介護を余儀なくされてしまったという。この人種差別的な対応に憤慨した日本人妻は、高齢者施設の入居を諦め、夫の在宅介護のために訪問看護師と介護士を自費で雇うことにするが、夫を看取るまでの数年間で1億円を費やしたという。このようなシーリングの見えない介護費は、経済的に余裕がある高齢者にとっても、大きな不安の種となっている。

事実婚が法的な結婚と同じ意味を持つオランダにおいては、老後の資金をオランダ人の夫がすべて管理していることから、「(夫が)先に逝ってしまったら、何もわからなくなる。聞いても教えてくれない」と夫に対する不信感を感じる者もいる。高齢期において初めて発見する夫婦間の戸惑いも多く観察される。

多文化主義を掲げていたドイツのような国においても、高齢者介護施設における文化多様性を重んじたケアの提供の実現は、非常に難しい。デュッセルドルフの高齢者福祉施設では入居者のアクティビティとしてドイツ民謡を歌うのであるが、そのような文化に慣れ親しんでいない日本人入居者は、当然ながら歌うことができない。文化的に孤立してしまった日本人高齢者は、認知症が進んだこともあって、アクティビティに参加することも全くなくなってしまった。ドイツ人介護士は、「私たちは日本の歌を知らない」と介護の限界を語った。その数年後、この入居者はドイツ人の夫との思い出をすべて捨て、日本へ永住帰国せざるを得なかった。

(5) 海外に在住する日本人高齢者の老いのナラティブは、海外で過ごす老いの厳しさを象徴しており、高齢者を日本へのリターン・マイグレーションへと誘う。2013年にオランダとイギリスで実施した調査では、オランダでの老後を決めている者は35.5%(金本2015)、イギリスでの老後を望む者は46.0%(金本2014)、ニューヨークでの老後を決めている者は40%程度(遠山・中島2019)であった。これは、海外在住の日本人高齢者のリターン・マイグレーション志

向を示唆している。今後の研究の方向性としては、日本人の国際移動と高齢期におけるリターン・マイグレーションをテーマとしてさらなる分析を進めたい。

<引用文献>

金本伊津子(2015)「オランダで迎える日本人の老い——在蘭日本人の高齢化に関する意識調査——」桃山学院大学総合研究所紀要 41(1)、55-80

金本伊津子(2014)「日本人のグローバル・マイグレーションの今：イギリスにおける日本人の高齢化に関する意識調査(1)」桃山学院大学総合研究所紀要 40(1)、1-24

遠山(金本)伊津子、中島民恵子(監修)(2019)「在ニューヨークの日本人・日系人の高齢化に関する意識調査——訪問介護の在り方を探る——」勇美記念財団報告書 邦人・日系人高齢者問題協議会 ニューヨーク日系人会

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Toyama (Kanamoto) Itsuko	4. 巻 45(1)
2. 論文標題 Japanese Global Migration and Aging: A Quantitative Survey of Elderly Japanese Living in Greater New York (1)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 桃山学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 77 - 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金本伊津子	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 日本人の国際移動 (グローバル・マイグレーション) と老いに関する文化人類学的研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 36 - 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中島民恵子 金本 (遠山) 伊津子	4. 巻 142
2. 論文標題 ニューヨークおよび近郊に在住の日本人・日系人における在宅介護ニーズの現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本福祉大学紀要	6. 最初と最後の頁 145 - 154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠山 (金本) 伊津子・中島民恵子 (監修)	4. 巻 1
2. 論文標題 在ニューヨークの日本人・日系人の高齢化に関する意識調査 訪問看護の在り方を探るー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 邦人・日系人高齢者問題協議会 ニューヨーク日系人会 報告書	6. 最初と最後の頁 1-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金本伊津子	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 知られざる敵性外国人ーオーストラリア人の見たタツラ収容所の日本人(1) - -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 桃山学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 15 - 26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金本伊津子	4. 巻 44(2)
2. 論文標題 知られざる敵性外国人ーオーストラリア人の見たタツラ収容所の日本人(2) - -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 桃山学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金本伊津子	4. 巻 42(1)
2. 論文標題 忘れられた敵性外国人 マン島に強制収容された日本人	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 桃山学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 57-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金本伊津子	4. 巻 41(1)
2. 論文標題 オランダで迎える日本人の老い 在蘭日本人の高齢化に関する意識調査 - -	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 桃山学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 55 - 80
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金本(遠山)伊津子	4. 巻 46(3)
2. 論文標題 ニューヨーク在住の日本人・日系人のエイジングに関する定量的調査の経年的比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 桃山学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 43-55
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toyama (Kanamoto) Itsuko	4. 巻 46(1)
2. 論文標題 Japanese Global Migration and Aging: A Quantitative Survey of Elderly Japanese Living in Greater New York (2)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 桃山学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 39 - 52
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 金本伊津子 中島民恵子
2. 発表標題 日本人の国際移動と老い ニューヨーク在住の日本人・日系人の高齢化とウエルビーイングー
3. 学会等名 多文化関係学会第16回年次大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
United States of America	Rutgers University	The State University of New Jersey		
United States of America	Brooklyn College	The City University of New York		